

## 思いをよせる

### <5年後，10年後，20年後を見ながら>

将来自分で給料をもらい，一人の力で生きる，家族を養う，という時期が子どもたちに必ずやってきます。その時にどのような力が必要になるのでしょうか。様々な考え方がありますが，だいたい5つくらいに集約されるように思います。例を挙げてみます。

- 1 目当てに向かって，根気よく，積極的に取り組もうとする力  
(目当て意識，自主性，積極性，見通し，判断，根気よさ，一生懸命さ，簡単にあきらめない粘り強さ など)
- 2 健康を維持し，安全に生活しようとする力  
(健康管理，交通安全，好き嫌いなく食べる事，リズムある生活 など)
- 3 周りの人たちと協力し合い，仲良くやっていこうとする力  
(良好な人間関係づくり，思いやり，助け合い など)
- 4 自分に必要な知識・技能を，自ら身につけようとする力  
(各種資格取得，免許取得，教科の勉強，受験勉強 など)
- 5 自分の進むべき進路を，自ら選択・決定する力  
(自分の特性を知る，希望進路や職業を探す・選ぶ・決める など)

本校の学校教育目標の具体に，「自ら立つ子」「共に育つ子」「明日を拓く子」の3つの言葉があります。様々な意味合いがあり，いずれにも関わってくるため完全には区切れませんが，上記の5つに照らし合わせてみると，だいたいですが以下のような関連になるかと思えます。

「自ら立つ子」は 1， 2

「共に育つ子」は 2， 3

「明日を拓く子」は 4， 5

人は一人では生きていくことができません。人と接しないで生きるなら一人で無人島に行かなくてはなりません。どこへ行っても人と接する場がありますので，人との関係づくりは私たちにとって大きな課題です。「共に育つ子」には，子どもたちが良好な人間関係を築きながら，互いに切磋琢磨して生きていってほしいという願いが込められています。

### <児童との会話から>

- 7月9日(月)，校長室で清掃が始まろうとしている時のことです。その日はものすごく暑い日でした。校長室の清掃に取りかかろうとしている児童と次のような会話がありました。

山田「暑くて暑くてたまらないな。水着を持ってきて一緒にプールに入ればよかったよ」  
女子「でも，その水で災害に遭っている人たちがいるんですよ」  
山田「そうだね……，その通りだね」

この児童は，大雨による災害に遭って命を落としたり避難生活をしたりして大変な思いをしている人のことが，頭のどこかに常にあるのでしょうか。その少し前には大阪で大きな地震もありました。西日本の遠い所で起きている災害，そんな程度の認識でいた自分が大変恥ずかしくなりました。

- 同日の通信には，七夕の短冊に願い事を書いたことが掲載されていました。「きょうりゅうはかせになれますように」「やきゅうがじょうずになれますように」「キャンプが成功しますように」といった願い事に並んで，次の短冊の言葉が目にとまりました。

1年生「おかあさんがかわいくなりますように」  
「ばばがきんにくいっぱいになりますように」  
「みんながけんこうになりますように」  
5年生「家族みんなが、健康に楽しくすごせますように」  
「家族みんなが健康で幸せにいつもくらすように」



自分の家族や周りにいる人たちのことが意識にあるということ、相手を大切に思うということは、これから学年が進んでも、中学生になっても、どこへ行っても人間関係づくりの基本になります。

- 7月12日キャンプ2日目。膝に痛みがあってあぐらがかけなかったので、子どもたちと離れ、切り株に腰を下ろして一人で弁当を食べていました。すると次のような声がありました。

女子「校長先生、こっちに来て一緒に食べようよ」  
山田「ありがとう。それじゃ一緒に食べようか」



膝が痛かったのですが、誘ってくれた児童の気持ちが嬉しくて一緒に食べました。「校長先生はどうして先生になったの?」「うなぎってどうして高いの?」などいろいろな話題が出て、一人で食べるより楽しいひとときになりました。登山・キャンプの2日間には、

「あともう少しだから、頑張ろう」  
「◇○ちゃん、一緒に行こう」  
「食器は私が片付けます」  
「みんなそろってからにしようよ」

など、相手に思いをよせる場面がたくさん見られ、ひとりぼっちでぼつんとしている児童の姿は見られませんでした。夜の集いでは、丸くなって一人一人今日の思い出を発表したのですが、進行役の児童は、「最初は○◇さんお願いします」「次、△□さんお願いします」と一人一人の名前を呼びながら進めてくれました。個の存在を大切にしている様子がかげえました。また男女の仲もよく、手を貸したり役割を引き受けたりする姿が自然でした。



相手に思いをよせる姿、相手を大切に思う姿（相手意識の様子）から、子どもたちの中に大切なものが育っていることを感じました。普段の生活の中で相手を大切に思う姿、思いをよせる姿が見られた時には、そのすばらしさや価値を、その場で具体的に子どもたちに伝えて認めていきたいですね。「自分が中心に」「自分だけが…」といった風潮が目立つこの頃ですが、相手を思うことによって互いに安心感が感じられるようになり、そのことが自信につながっていくことと思います。

1学期も登校日があと6日、最後のまとめの時期になりました。

「この1学期に○○ができるようになりました」  
「今まで△△だったけど、だんだんよくなってきた」  
「1学期は、◎◎をととても頑張ったと思います」  
「友だちの◇◇君は、いつも発言をしている」  
「□□さんは、歌の練習の時、寄りかからないで一生懸命歌っている」

このように、自分の頑張ったことやよさ、友だちの頑張ったことやよさを見つけられるようになってほしいと思います。こうした振り返りは、夏休みの過ごし方や2学期のスタートに欠かせない大切なものなのです。

